

## E(上)・F(下) つづら折り

斜度 30 度を超える急斜面である養郷宮之脇遺跡では、道路をつづら折りにし、馬が登りやすくする工夫がされていました。つづら折り工法が駅路に採用されたことが分かったのは全国初の大発見です！



つづら折りの道路  
(右の画像を反対方向から見たところ)



## G 条里地割と湿地

青谷上寺地遺跡と青谷横木遺跡では条里地割が古代山陰道とセットでみつかっています。現在の勝部川と日置川流域の一部では古代山陰道を基準として条里地割が設置され、田園風景が広がっていたと考えられます。



青谷横木遺跡の  
条里地割



## H 丘陵部の道路の作り方2 (切通し)

丘陵の尾根筋を直線的に切り通して、道路が作られています。これまで、駅路は平野部での調査例が多かったのですが、史跡出雲国山陰道跡(島根県)の調査例のように、丘陵上に作られた古代官道の様子が明らかとなってきました。

切土  
道路



養郷新林遺跡の切通し



# 古代山陰道XRを10倍楽しむ！

古代山陰道XR公開資料

令和4年4月16日  
鳥取県埋蔵文化財センター

「古代山陰道XR(クロスリアリティ)」は、最新の発掘調査成果をもとに、奈良～平安時代の古代山陰道を鮮明な画像により再現した動画です。使用者が古代山陰道を馬に乗って都に向かう様子をリアルに体感できます。

## 古代山陰道XRの特徴

- レーザー測量データをもとに古代山陰道の地形(切通し、つづら折り等)や青谷周辺の地形を復元しました。
- 発掘調査で確認された柳の並木や側溝、<sup>じょうりちわり</sup>条里地割などを再現しました。
- 馬に乗って移動する使用者の目線で古代山陰道周辺の景観を360度見渡せます。

## 古代山陰道調査成果

### ようごうみやのわきいせき 養郷宮之脇遺跡(青谷東側丘陵)

- 養郷宮之脇遺跡のつづら折りの道路遺構は、古代官道では全国初の調査事例で、貴重な成果といえます。古代官道は都と地方を最短距離で結ぶため、基本的に直線的につくられますが、調査によって、斜度が30度を超えるような急峻な地形ではつづら折りとなっていた可能性があります。

### ようごうしんばやしせき 養郷新林遺跡(青谷東側丘陵)

- 尾根筋に沿って大規模な切通しの痕跡が残っていることが確認できました。
- 3段階の道路遺構が見つかり、一番古い段階の道路幅が約9mであることが分かりました。

### ようごうきつねだにいせき 養郷狐谷遺跡(青谷東側丘陵)

- 丘陵部<sup>どど</sup>を大規模に埋め立てて道路を造成していることが明らかとなりました。土留めとみられる杭の痕跡も確認し、地形に合わせて多様な土木技術を駆使して古代山陰道はつくられたと考えられます。
- 道路が斜度20～25度の斜面を直進していることが分かりました。つづら折りが見つかった養郷宮之脇遺跡とともに急斜面における古代官道のルートや構造を解明するうえで貴重な成果といえます。



古代山陰道XR(動画)はこちら

<https://www.youtube.com/channel/UCzljQERjFXs50AtjgtdXJg>





青谷横木遺跡の調査状況



**A 古代山陰道の構造**

青谷横木遺跡で確認された古代山陰道は、道幅が6～7mあり、両側には側溝が設置されています。道路は盛土によって作られ、路面は小石がたくさん入った土で突き固められています。



**B 柳の並木**

青谷横木遺跡では、古代山陰道に沿って、柳並木がみついています。並木は官衙施設の周辺に限定的に植えられていることから、格式を高める効果をねらった演出と考えられます。



青谷横木遺跡の柳並木



**C 官衙施設**

青谷横木遺跡では建物跡は確認されていませんが、複数の柱がみついているほか、出土した木簡に書かれていた内容から、気多郡西部（現在の青谷地域）を治める郡衙（郡の役所）の出先機関があった可能性が考えられます。

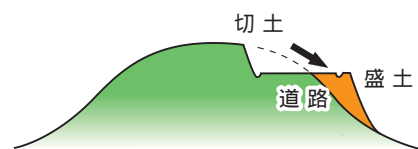


青谷横木遺跡で見つかった柱材

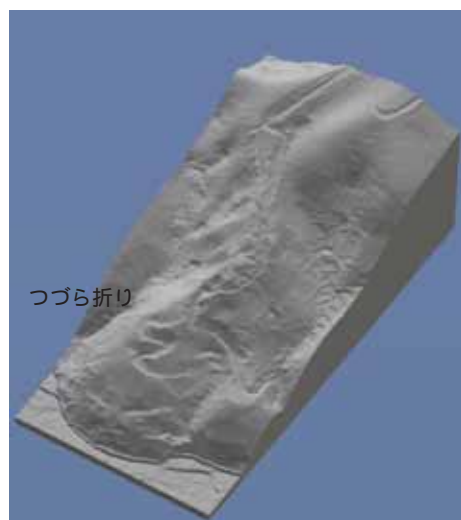


**D 丘陵部の道路の作り方1**

尾根の片側を切り取るように掘削し、その掘った土を利用して谷の斜面側に盛土を施し、道路を作っています。

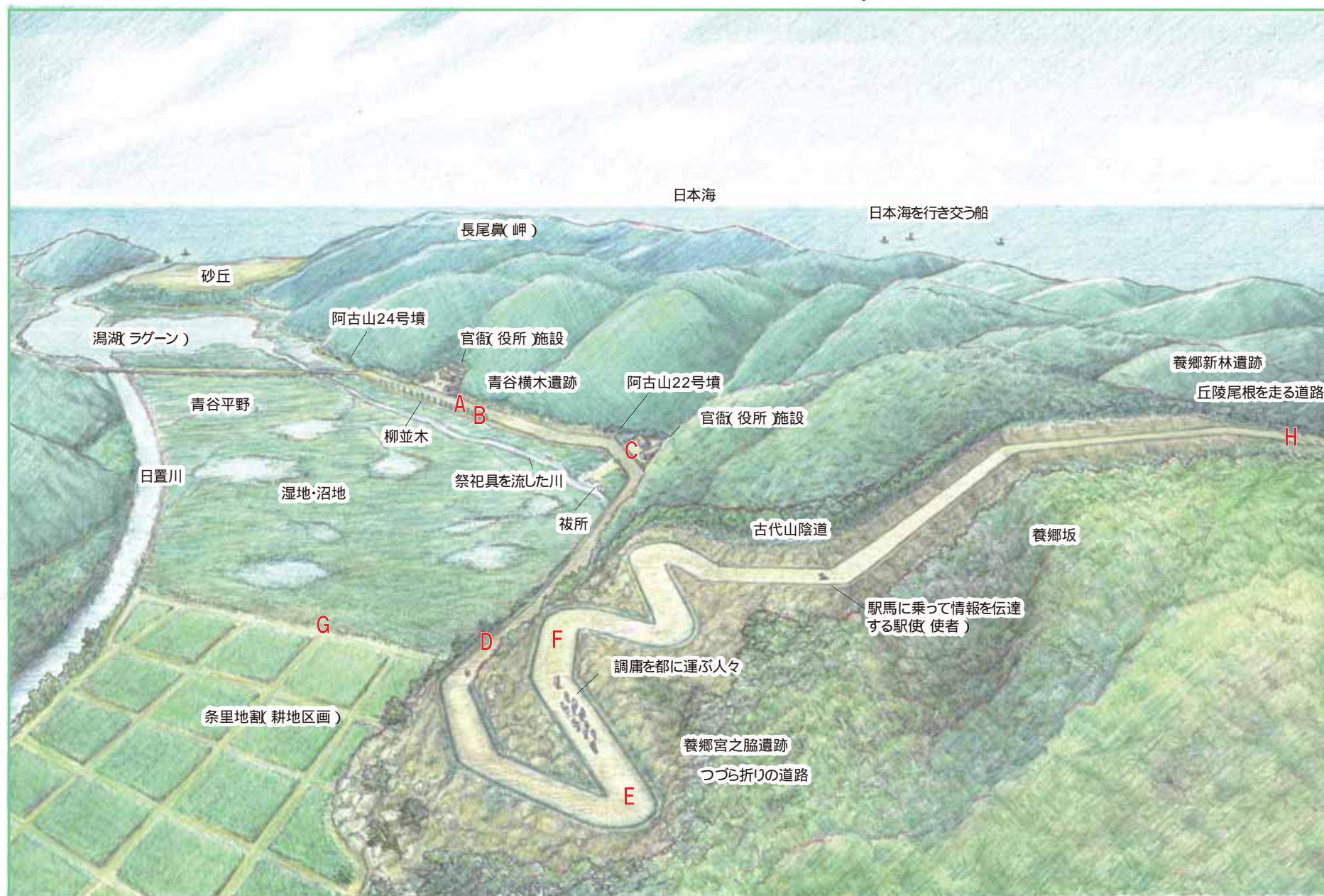


青谷東側丘陵



**古代山陰道の地形図3D画像**

こうしたデータをもとにXRを作成しています。



古代山陰道復元イラスト（アルファベットは解説の場所を示す）

（山本正治 作）